

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak

LICENSED PRODUCT

3/Color Black

White

Magenta

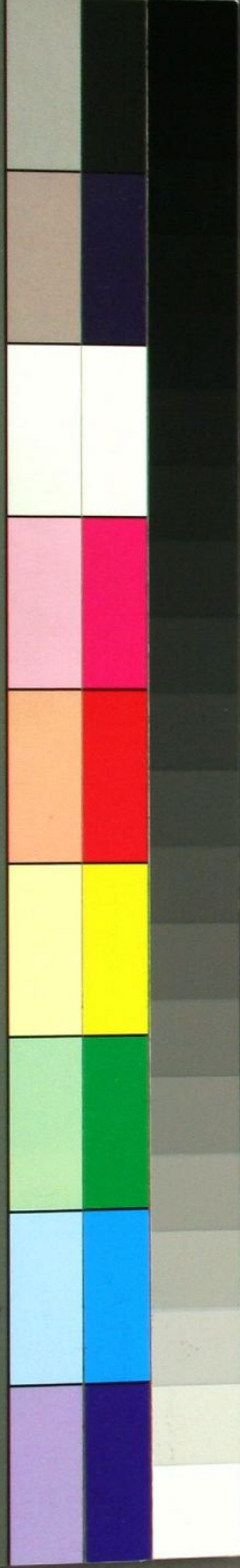
Red

Yellow

Green

Cyan

Blue



繪本 懲瘡軍談

貳

1413
2
13



13
1412
2

徽瘡軍談卷之第二

伯州米子船越敬祐著

試ニ舌戰一国王授任

挫ニ奸謀一賊徒伏誅

昔賢（昔賢）のるま（昔賢のるま）あり人身（人身）の箇（箇）の小天地（小天地）なりと抑人（抑人）体（体）心（心）といふ
其方終（其方終）は女人（女人）かん（かん）ふも万物（万物）そと備（備）り乾坤（乾坤）陰陽（陰陽）の理（理）一つと
して（して）又（又）まは先東（先東）方（方）の肝（肝）の統（統）と云ふ教（教）ありてま（ま）と本（本）と瓜
ま（ま）がう（まがう）一切（一切）ま（ま）る色の物（物の色）と貴（貴）び（び）て食（食）の礎（礎）きと好（好）む勸（勸）凡（凡）二（二）反（反）と管
領（管領）一（一）握（握）の府（府）と支配（支配）凡（凡）風（風）事（事）多（多）と去（去）地（地）なりあ方（あ方）の船（船）を抑（抑）の統
とま（とま）入（入）秋（秋）と金（金）とま（ま）がう（まがう）一切（一切）白（白）色の物（物の色）と貴（貴）び（び）て合（合）の辛（辛）さを
好（好）む皮（皮）毛（毛）二（二）反（反）を管（管）領（領）一（一）又（又）揚（揚）の府（府）と支配（支配）凡（凡）乾（乾）燥（燥）の務（務）と



る土地なり南方の地を心の機と云ふ夏と火と云ふ一とい
赤色の物に貴びし食の若さと好む血脈二と管腹一と
揚の府と支配に温熱の土地なりけ不主地よして主人
在ん小方の地と背の機と云ふ火と水と云ふ一切をこれ
物と貴び其合の融と好む骨髄齒牙の諸及と管頰一機
機の府と支配に寒事務とする土地なり中央の地と脾の機と
云ふ火と土用と云ふ一切黄色の物と貴び其合の甘さと好
む肌肉二及と管腹一胃の府と支配に温湿の土地なり土中
すべし九門あり眼耳鼻各二門は口木及門翹なりなりかくれ
如き人体固其教无重无造はて其中女玉男玉の別あり女玉
へ男玉は強し男玉へ女玉と恵む女玉と強し男玉と湯と強し

陽玉和合して又女玉と強し生じて止まは一玉毎に定知して
初それ減れ式は百年式は五十八年なりて五十七年
を一劫といふ所ども病と云織ありて女玉と侵し悩一征討
度と強る所の劫減を待だして出る女玉あり又土着玉の
若別あり土玉の中も字つを女玉と強る玉あり勇武純
激と強る玉あり医術方業と強る玉あり書玉あり一の
不同われども大略一則小方他と強て勤し玉あり工匠と強し玉
あり貴實毒と強め玉あり又玉中も貴族多し強弱も
のふれりりる玉あり各玉厚薄なりけ強弱も玉あり一玉あり
妻玉土着玉も玉ありすれば自玉の勤めと意り貴玉の機と危
げ首玉の美玉と梅り強玉の弱玉と制れ中も医術玉の彼病

補と返活する変とまづれれば任最重きまなり玉の主人
公賢明ければ業軍とま豆の如くは使いつゝある悪補とも討て
し病玉の太平と救たそと以て病玉よりもそと救ひ祝禱を
厚くすれば自づろ英統の憂いひもるべきは近以の医玉主
まづの不正とて難き使候と以て重貴玉は媚痴ひ良妻
かも亦そと使に医業軍法を精一かざる者も病補追討
の任と与て難はたそも小ぢり合はよけれども一旦病補の太平を
重とまの強弱の補刻寸切と奏せは忽滅とまる玉を救と知
おれ不実の医玉主の病玉の横妬とそろ功あると知りまづろ
願眩と思れて勇猛の劇刻と用ひは陸弱の腹刻とりのり
我のめ若程よく戦ひ勝らる軍切は海軍軍利おして病

困滅込すとも自玉の害小あづるなり其討ハ祥はるま
命救を以てすば何と小くも思貴ふとづろりあるは
とかくの如くお徳と持し其実おが上は引文けて忠戦とる
おはかたば病補討と侍て侵寇剽掠ほまひまふありさても
玉人の神将ハ俱生神は清と直は福徳自在樹つが人神玉
又玉り玉成は登りて捧福を乞ひしれ玉の主人公大は悦び
自出てそとまへに空を居しめ空をうて後厚垂まひ我
が玉と始め属玉返牧磨のむに神は衛軍玉中は攻今困若
するま一日は非に救多の医玉より軍ゆと招き暮り合致救度
及た補使強じては方利を失ひ玉の亮さ及墨印の如く
今度修生神のすまは陰ひ先生と信待り不子速の来

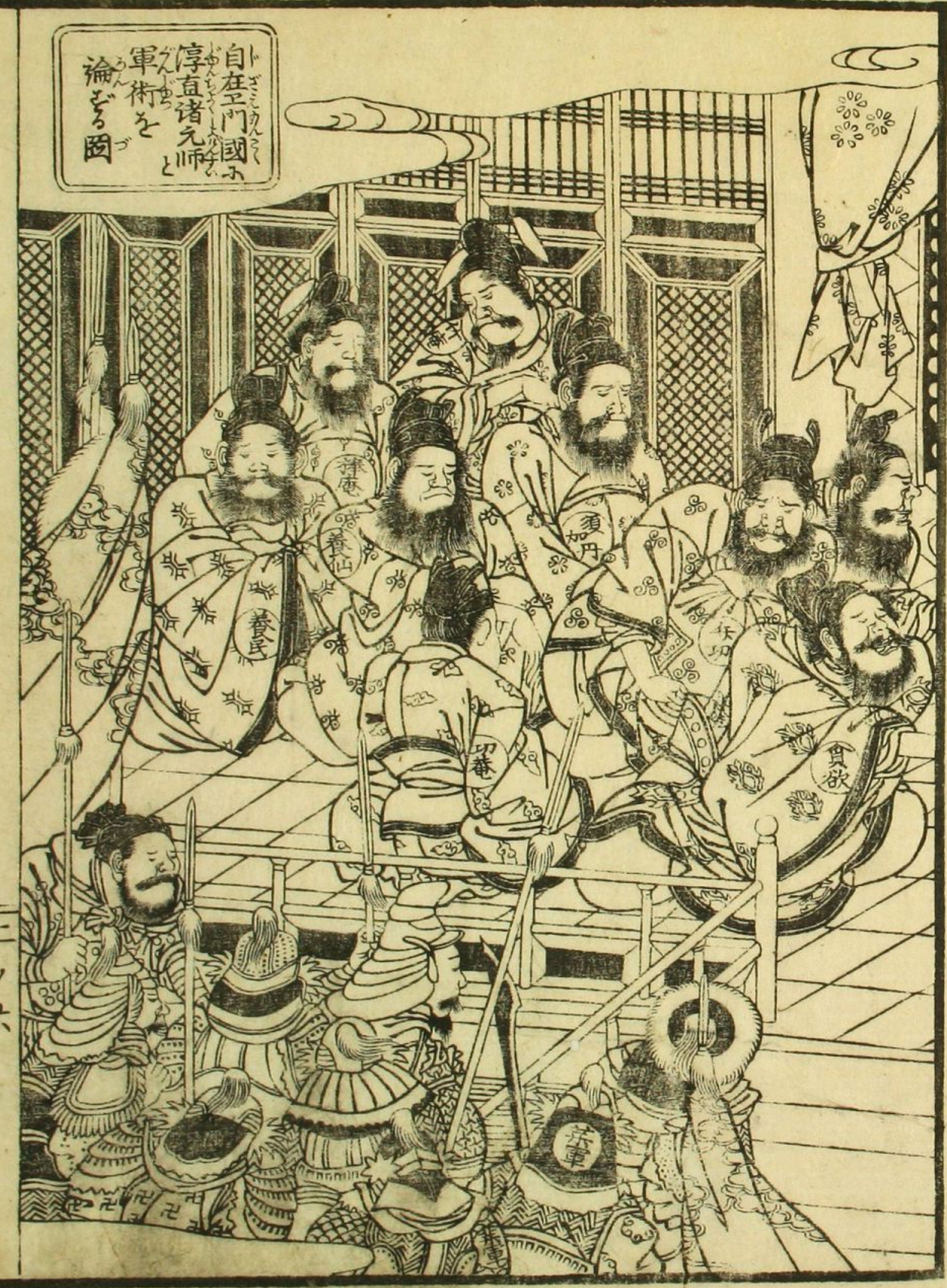
臨何の表びる乞ま志入去ちがうそよ一つの冠後わう我が曹
先生と込々大元帥と仰んと欲すれば先元帥と迄たる医
玉主救員先生と拒んで彼へ返すまの軍まふれず儼然馳
隙の元帥の番小難儀と罵るま又うそふん希い先生彼等と
一同善しと我が難いも情にま入と云いして淳正世も擬互
世に某已に招きに應じ何ぞ貴をまよむんや元帥と應
対のるのへなより致し承せりと答せば玉主やうて命と傳へ大
元帥副元帥と外軍將と招き集むせ而して山井一民社
良捧唐教井付唐寺領書仙我久井須加丹滑回須文不
実貪欲口利切庵不学多切等の医術玉の主人公何れ高玉
主の愛信する承せり陛下の部下の軍將山飯来列五宝丹

紫金丹難計愛等と始めとて搜風解毒湯消癰散毒
菝葜攪浮肝湯防風通聖散荊蒺散毒菝葜六物解
毒湯通天再造菝葜苦芩菝葜伯呂菝葜反鼻丸三膏
三膏玉菝葜青赤万菝葜青玉菝葜速功紙健膏菝葜付
菝葜洗菝葜蒸菝葜と外菝葜將三百余員救うとて排列に
介付候生神の度中とみ入り各知りまうとて儼然強
じて玉主を危く玉主の憂若殊は遠各の軍死せらうと
ふあゝ候も未平治の崩しと云はれりて我玉主とすも淳
正を侍ひたり元帥の任と手へ巨毒及び等の口天と大將とて
致して我い志をんと欲し是迄の如く六物解毒湯攪風解
毒湯忍冬菝葜菝葜或は五宝丹紫金丹洗菝葜蒸菝葜三膏

等と用いて城とて使は日と送は徹城防方と備り入権六府及
のり次第は中表徹して精力に滅込括と折て侍べし未必
存の勢ひ感ある内は正善丸作廢丸徹効者奇良湯等の
津將を用いてまはりの二軍とて軒要あり各夫々入るべし
へとまふと列座の内より用をく大正徳生津が好まを信トス
又茶毒送と暴將と用ひるふ止ると得たりと用也とさりのハ
奇良湯一人あり正善丸徹効者治廢丸の三人勇将の大將之
とてたき茶ふれば茶毒と云ふものありて徹毒とて早りと後
却る玉や次とふやまたと徹毒ととぎたりと云ふは徳生津淳車と
心と合がくの如き種悪の茶將と用ひ表の徹城と討と府とに遠
みいふ家と茶集人を欲は彼等とて殺送人の強かたり今徹毒と

おきてはてはかといひて我ふづくは先難肉といひてまねに十令
大補湯補中益氣湯の如き補劑といひて玉毒と補い中
の氣血と補環とて膏茶といひて徹毒とてせざるは入神女令
とて徹毒も自さるは徳生津淳車が如き好人と延善丸治廢丸
徹効者の奸賊等と除きまら玉毒の更いとまねがとて入とて声
と書りたり諸人おどろきとてえれば不実矣欲滑回頃々の
人なり徳生津淳車怒り切と合色といひて病國とてつる勢宋國
の海軍玉毒女危の神宣大功の席は臨んで毒口と用ひ失殺れ
るありふり玉某と姑ら淳車先生天を逆も皆深及の苦難ありとい
は控ふる籠其をこし海軍と母り人も云深りといひ私辱とて
らん先生我とまかりて具は各別とて度と退けは淳車ハ

自在門國
淳直諸元師
軍術を
論むる図



等皆山版木と以てまると此故に余亦良湯一將と用ひ何れは
赤き勇將ある故に余これと以ては天竺に他の葉と以て是が助け
凡微毒と表はすに此天竺を用いてはたなるなり他の方ハ搦臨
薬は透きながれ勢と比ば我と又微毒対治の實効あり延考丸
作廢丸微効薬の二大將と用いて合我は乃び甘ハ微毒滅徒
の五搦ハ骨髄不攻に皇たる者も爰れ一て表ハ廢底ある本
に骨の痛と廢底とは搦け出さるなり是微毒滅徒を
總除きて凡因とあがが攻なり微毒遊まると志ぐハ痛より
搦水つき底悉て大車とある又云うてハ内ハある微毒延考丸或
ハ作廢丸或ハ微効薬不攻なりと表はすて熱と廢底と廢底五
日又遊去るなり是と以ては金ハ微毒表の法を温葉ありは若ら

如き者ハ水根と以て一向に之を葉と云ふこと妙じと葉ハ若法と
よる者より米と糲と水とを若法よりて甘酒とかり此より内
とかり焼酎とある此内ハ冷水と以て造るとも熱する付熱相と
ある法等ハ冷水と米とを以て造るとも米を葉とするなり延考丸治
廢丸微効薬は三將と余ハ温熱の表表刻といはれ三將の武勇
能疾病と破り微毒滅徒を總除するなり神の比に余亦よき世に
まはすと云ふた人ハ下府揚梅廢底或ハ骨痛或ハ助痛或ハ助痛或
口枚狗脊腰後の底或ハ個鼻等の痛も法の劇業と用いて
大効とありしはみありは木の底或ハ搦徒ハ痛と云はれ
病根ハ按たる換る宜い米微毒つきざるハ大切と云ふ葉將と若
葉毒とぬくと林にて山版木刻と用いるハ大いなる誤りあり

彼葉毒が入神玉中何の所止るべきやと尋ねる所と余未だ知らず
おのの葉毒といふ者の葉毒あり一切の葉毒なきは此毒能
病毒と破る病のおふ毒はて人身よりあつて葉毒と云ふべし
又劇葉と用いて口中いささき涎沫と出たは口中よりこれ
よつて葉毒ぬけが故に葉毒つきるたきさぐは口中に葉毒
毒のこれば口中も活せざるなり微毒は他の病と承らるる容易に
抜去る者も非だあらばたるところ一旦治りたりともたゞこれ
尋の冬に抜するがじに病根立搦六指骨髄よりて葉毒つき
精氣後一病を治せたり不害とする所へ又あらざるありたる
延壽丸もせよ又治癒丸微効ある身良湯もせよ功を
降る者へ久後して病根とぬきとることもあるは微毒再發す

る時葉毒も名づけて麻治と云ふ葉毒体中にある者もたゞ
微毒の葉のこふ層をばた大葉を用いたるも大葉のこく
抜中よりこくは抜痛大後下利大葉の毒はきとて抜痛も
下利もむむちう後日さむりて大葉の毒再發抜痛大後下利べ
きや微毒の葉もさむりて准どておとす一病毒と扱はたす
おとすのほきたるはじとすの葉のほきとすのふとるまでこ
中とせざれば功は延壽丸の如き勇武大將能病毒を癒す
大功と云ふことども途はて止めらば他の葉を用ひらる所へ
病根ぬけざるは中にこむ者には中活るとして功あり葉を
控はるのあきむらり或は葉のさよふる返用いるべしは丸
病根は抜去る若く再發とるものもあつたは葉を用ひ

必活の如きと云べきの未業將を用いる方法も知れ生実病を
治するの如く利欲をかり病をの意とて奸を吐く
毒困送は非はして何ぞや今も我が口天を運来れ等の武
勇ととてあり玉を害する逆徒と云ふ昔附日本式の武
漢の高祖の急病を救ふ平の貞盛者京の秀川の武勇を以て
天下の天病たる平の将門を以て此等の入悪徒の如く大く
なり玉君のおふ良業なり汝等ふんど病を治するの業能と
業毒して是と終りかを助るの良將を除かんといふや医門の
罪人必々の奸賊を公おけ二人を追放し玉の賢いと除き入
と相するどんといふまつ此二人は入体玉にといひつゝは義と云る

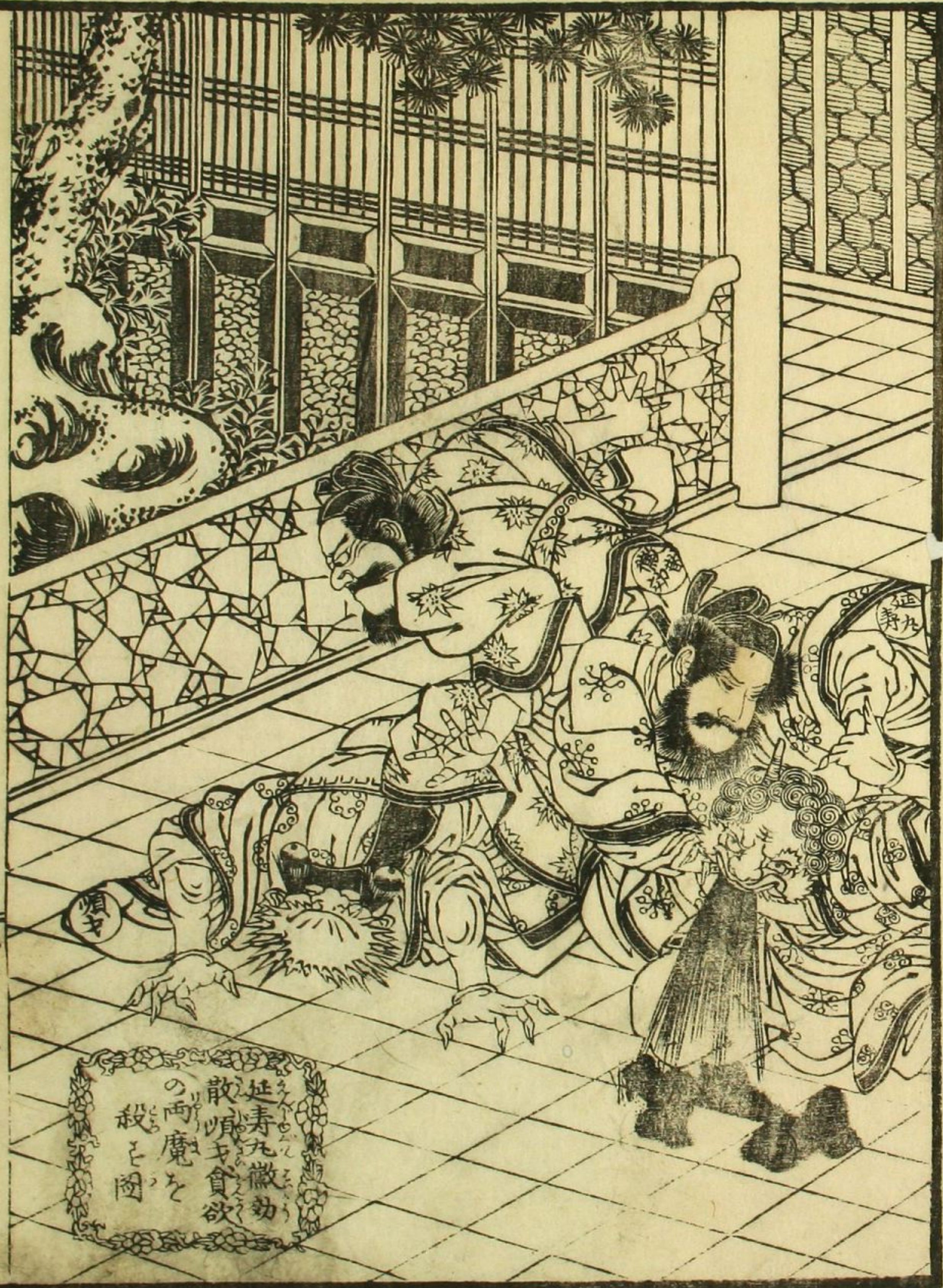
者たふればまゝ公これと云はば先業の悪り候るといふひふが
今徹毒賊徒のおふ玉を公と云はばそれと破るの将定れ中
ふては方の内れあふば不者なり軍おさる追友人の罪と云
むへと云ひけむは淳吏も怒りと抑へ我が軍をさす句後必三賊
が耳鼻をさす玉境より追拂ひ病をたまはし医及よとむく者
のみせしめふいと云んと云ひすく再一度は白ひまかす口を
閉ては是非おぬちん各不存と云へと云ひくを列せ
の中よりは利功庵進と云て某二の不審あり九種新刺業
ま乳とつひるごろ志すかるや刺等の大将を用ひ我山版末
刺虫室丹紫金丹難麻水銀丸等の大将を用ひ一五ハ激
毒賊徒と改修り玉を大平と云るといふも不目よを名の賊徒流

不^レは^レ悔^レ起^レ一^レを^レ家^レと^レな^レり^レまた^レ世^レ村^レの^レ徽^レ毒^レも^レ業^レ毒^レも^レも^レこ^レか^レ
る^レ然^レに^レ多^レく^レい^レき^レと^レ業^レ毒^レと^レて^レ合^レ戦^レと^レ後^レは^レ又^レむ^レむ^レむ^レむ^レ切^レあ^レく^レ
終^レは^レ玉^レ家^レ滅^レ亡^レと^レい^レい^レ人^レ淳^レ忠^レ後^レ宮^レと^レて^レ善^レく^レ曰^レ丈^レ徽^レ毒^レの^レ
隱^レ忍^レふ^レ剛^レの^レ病^レか^レり^レ三^レ三^レの^レ傍^レと^レ濟^レて^レ必^レと^レり^レん^レと^レや^レ少^レし^レも^レ
病^レ玉^レの^レ影^レと^レふ^レせ^レば^レ再^レお^レな^レと^レ玉^レ家^レと^レ及^レ侵^レれ^レ村^レ徽^レ滅^レ亡^レと^レ後^レと^レ
そ^レの^レ病^レと^レ室^レの^レ毒^レを^レな^レと^レ悪^レ毒^レの^レ粗^レと^レみ^レず^レは^レ業^レ毒^レふ^レと^レ終^レと^レ
之^レ益^レの^レ合^レ戦^レと^レは^レ終^レは^レ玉^レ家^レと^レ凶^レれ^レあり^レ山^レ賊^レ其^レ利^レを^レも^レ獲^レ得^レ生^レ
々^レ乳^レと^レつ^レひ^レる^レと^レろ^レ志^レん^レか^レら^レら^レ後^レ業^レ毒^レふ^レと^レ格^レ利^レと^レなる^レ者^レの^レ
あ^レく^レま^レで^レ業^レ將^レと^レ用^レひ^レ徽^レ毒^レ滅^レ亡^レの^レ隙^レと^レ居^レる^レ者^レと^レそ^レく^レ速^レ
除^レして^レ病^レ根^レと^レ断^レべ^レき^レあり^レ抱^レる^レに^レ玉^レ中^レ少^レく^レ治^レり^レ徽^レ滅^レ亡^レる^レ時^レを^レ
玉^レ油^レの^レ意^レ腹^レして^レ良^レ医^レの^レ術^レを^レ用^レひ^レた^レ業^レ將^レと^レは^レ玉^レと^レ肉^レを^レ

と^レり^レい^レれ^レ女^レ室^レま^レま^レり^レ再^レ玉^レ家^レの^レ天^レ札^レと^レ引^レ出^レた^レ中^レ村^レ首^レ医^レ務^レと^レい^レふ^レ
へ^レ是^レ皆^レ彼^レ業^レ毒^レの^レ殺^レす^レる^レ本^レなり^レと^レい^レて^レ婦^レ功^レと^レ立^レたる^レ業^レ將^レと^レ
遠^レざ^レけ^レ无^レ益^レの^レ補^レ劑^レか^レど^レ必^レて^レ致^レし^レめ^レ功^レあ^レき^レ時^レは^レ急^レに^レあ^レの^レ有^レ
切^レの^レ業^レ將^レと^レ務^レり^レ彼^レが^レ毒^レ勢^レ甚^レき^レし^レて^レ全^レ活^レし^レと^レい^レふ^レは^レ已^レに^レ分^レ杜^レ
を^レ殺^レす^レの^レ計^レと^レす^レは^レ病^レも^レ亦^レ是^レと^レ倍^レト^レ功^レの^レ業^レ將^レと^レ罵^レり^レと^レ
中^レま^レだ^レけ^レ上^レの^レと^レ或^レハ^レ却^レら^レや^レさん^レ或^レハ^レ初^レ務^レ致^レ立^レと^レ後^レは^レ月^レ日^レと^レ
送^レり^レ望^レは^レて^レ亡^レぶ^レを^レ待^レつ^レ恫^レ矣^レと^レい^レふ^レの^レま^レり^レは^レ非^レだ^レや^レ未^レ徽^レ毒^レ必^レ
不^レの^レ志^レも^レぬ^レ也^レと^レ有^レ切^レの^レ業^レ將^レと^レ再^レ用^レひ^レて^レ致^レし^レめ^レば^レ滅^レ亡^レ
を^レ封^レじ^レ不^レ目^レは^レ玉^レ家^レ全^レ活^レの^レ大^レ本^レと^レ致^レさん^レの^レ必^レ定^レや^レり^レを^レと^レ
は^レ業^レ毒^レの^レ害^レは^レ非^レだ^レ徽^レ毒^レ滅^レ亡^レの^レ再^レ致^レさん^レの^レと^レ致^レは^レに^レ女^レ
上^レは^レ徽^レ毒^レの^レ送^レ札^レより^レて^レ滅^レ亡^レする^レ玉^レと^レ急^レに^レ是^レを^レ医^レと^レ業^レ將^レと^レ

用いるの法より一軍死のよろかざるをまきのひふか
らざると思者の身りも業將と傍りますこざるをよるま
未始法并けざるが故なりとてふとやまう我久井須加丹法を
左右におよびて申さふがう云ふべきものあり是下の痛おる理
よあふるといふも法未并けずとい何とてさる我が東洞先生
初て右送法と教ゆ一扇務仲系の子まとさぐり初り傷を痛
金匱要略とていふもききう一續く南涯先生乳血水の痛を
立月幸のおろろ吳越近もて智教は感板に乳毛人も東洞先
生續七室とていま一狂務初と申して効あがるをいひ及んに
紅毛玉のとりひると同扱あるとて言とまて大なる信す我が
東洞先生は天朝名医の聖賢はて是より法法大なりけ病

の定理と知るは下も東洞先生の道とて治術とけいひあがらぬぞ
治法并けずといふもやまて以て傍者今ありといふを厚東洞先
生と笑ひ是下の言の如く東洞先生より右送法ひけり今天
朝の治術三書とすごとたり抱も此微毒の由世流りの病
はて東洞南涯の二先生も未此症の祥あるもの痛トあるは
某が治法并けずといふは難病のつら非だ此微毒一證の治
法祥あふざるものとてさるありけ微疫責人今る家も稀なれが
天下の名医も此病の治藤は骨と折ざるが故に中著るは死れ
出空福安後のもおり愈々の治術果方の加減とましく
出たるは一つもは凡天下は水火やど玉の家の助けとある者は
又此書家の害とていふ者水火より大なるは是も又たの如く



加減の法と知らずて是を用ひるるは病毒を深くと
能くは過ぎたる所は却る害とふた葉の要は加減あり東阿
南涯の二先生の如き後劇の業方そ及ぶ意ト尚阿は放て
効と得るも只こと自侍の妙あり後世のあま準平院と
あふさ虫と独るは何と以て微瘥治例の指南とすん
やこのおま治法未定けはといふしーあり今皇下の云の中
後七室の文と考あふ是も葉毒滅は漏てふた葉と毒
せざるものと推すもあり日本古来の名医たる東阿を生
煙粉丸の独五宝丹ふるふまことと以て煙粉丸と七室
丸と名づけらるるけし七室丸の智勇の及ぶる勇煙の強滅
痼疾結毒ふ後七室と云く大將と自製して是を用

ひ南涯先生其生乳を配して痼疾掃除の大將は徳金の強
滅と仁野一丸生乳後七室と云ひるの武勇の煙列るる
煙粉丸と云ては口伝傳あり東阿南涯の二先生此二大將と
葉葉水銀丸煙粉丸等の能を以てふた葉の運滅る病毒と
殊對と云きことと天下後世の疾因にあへと独一丸も葉毒
醫中よと云まうて後日よと云と害するとい編トあはれ何ぞ名も
ふき佐医もも二葉の言と推しまう是等葉將と傍るれ
理りんや或は又煙粉ふとと表むきといひまう田かては醫
用し病と歎くがぬきいむ煙もは微瘥瘥治秘傳微瘥約
言ふとたはみづるは煙粉と傍りて用ふべうと云と編ト止る
をばざる阿は又煙粉と用ふといふことと煙粉と傍りて害するこ

いふも巴が口又煙粉を用いて妙効するといふも己がねそ安言
あまう某の名著と好まざれば救平研究して自得する本は治
術業方と集め假名虫ありて徹底須経徹底雜活の二
虫と行くる不実矣歎滑回頃支未とく如き外字をかざる
絨医にかまつきの虫の札の上にある者あり各佐の文字
ありて究理を勤む世と後てそ此と毎ト多と教冊の虫を
そ出せば切産須加丹人そ比び我々今の書は服とそそ世
足下の言の如く徹底治法のくじきりの法試まけとそえ
下んと父を懐中よ入と追くあふ山井喜良氏のみかまういふ
先生我と世医の軍記とそらに煙粉刻吸業生と刻とそひ
るどろ志んかろめく刻等と用いて速に傍刺と得玉家治り

て後又業毒とぬくと用いて山版刻と久後下む者救月の月
よ又逆後降起とそそと悩す一乳世よあふ何ぞやと回し厚
重右重うて足下のなる本そ又世と通貫の要編ありそそ
えし如く業毒抄とそそ入る玉ての要編ありそそ
ざれども世上一門のそと信用し通商の業と使めて山版刻とそ
用いぬと業毒と扱とん故に病毒再發するうたつら
也も通商の業將を用いて病の殘業と殺しそそ下彼徹
徹ハ不剛の術と身之軍故とてけいさる附ハ我ハ毛宮と源と或ハ
骨髄と源とて附ととけらそそ取らそそ附ハ本の妙く玉中よ
とけいさる實は稀代の匠術なり此徹底業とそそ眷属ハ万子の
中ハ二騎高千の天將教十人あり抱るに治癒丸延壽丸徹

効薬の智勇不撓の能はるる奇良湯五宝丹兼金丹
麻黄雞汁兼金丹に能撓者あり活廢丸延壽丸
能撓とすも奇良湯五宝丹兼金丹雞汁兼金丹
は撓るの能はる者なりとす合あはしとす延壽丸は
勇とすも能はる者なりとす合あはしとす延壽丸は
丸の勇智不撓の能はる者なりとす合あはしとす
も活廢丸の能はる者なりとす合あはしとす
三人の同様の智勇なれば是とす合あはしとす
るるの必定なる故は是又械徒の能はる者なり
丹兼金丹雞汁兼金丹此五人皆山崎其の能はる
主とす故は五人の勇智同様なれば奇良湯とす

十二三回の撓と得る由は奇良湯も機械也とす
兼金丹軍用人多しとす長く用ふるの能はる者
さて是等の諸將を用ひて或は機毒械徒の軍中
機とすとすも奇良湯とすは是等機徒にて何を
えらるるの能はる者なりとす奇良湯も機徒は
必撓の利あるとすとすの能はる者なりとす
者もはる者なりとすの大將と機徒は延壽丸
兼金丹良湯の能はる者なりとす奇良湯も機徒
はる者なりとすの能はる者なりとす奇良湯も
他の大將とすも奇良湯と撓る者なりとす
道中門前種氣が具する奇良湯の能はる者

さすおもせしむる患る病二五日の日は一宿つてははくあり
五七日の日は二宿つてははくあり
務だともじ務る付の種とるして軍とせむ務と志く六日
報とせし二日も返だ病を若年のつてははくあり
く体は口中のつてははくあり
利といて患る病今く治すとも病とせむしてははくあり
行勅と侍方業將とてつてははくあり
招して勅旨も完のるは強き方侍とてははくあり
再敷の憂いふらむたしははくあり
ふれも諸業將の月初め用いて勅と侍方者とてははくあり
子速に務とるあり或は始め勅ありし業將再敷のつてははくあり

再むの敷自敷ふとも志かり初末きともたつてははくあり
又志るべき業將かへつてははくあり
とを補まむるそ二日務利と侍の病減令くははくあり
ひの勅の業將とてははくあり
を抜くとほははくあり
はくありかたははくあり
是と抜くと業毒のそ業毒のれりかたははくあり
まむる中再礼と引おらるは業毒ふあはくあり
残後の取らるははくあり
け山飯末と用いてははくあり
たりあとも用ひる山飯末刻とてははくあり

ト微毒を討つに討つ劇刺勇の及ぶに彼毒のた山版
本より業毒と解とんは微毒と討討するの二奇業うるを
を知らざる実業つじと是非を以て後とせし山井忠民
甚感振一先業の高海皆実強はて禁が及びぶああり
お向後の先業とあさき軍術折南と文くじと業操一恭
殺するはる不業女切志や志中り世で今厚業の海はる不そ
都野の業のまことととらもあはる者ひのけとを
よ方辺の人体をいまともととらもよ京はて女業ぶぶ列を
物やううあれば都野療治の合政のうけひととらあはるく
志して用ひがじとと暖玉の人体をいまともの風をよとを治
療合致もらぶと厚業女切志や志中り世で今厚業の海はる不そ

上より風を告知たるよ方医者と軍師とはて致さればあそ
らくいあやまらあはるんととるの厚業の操とをよととらあはるく
切と致討する海ね今のまことととらもあはる者ひのけとを治
おたぐい女とぬく病をい偏ひあそととらあはるく
とと医者する者なり夏設周之代の業方と僕の業よつりて
張仲景業と採ひ又自方と造り傷を痛令医要国各の二
ととあはる後世の業ととらあはる者ひのけとを治
はる療治の規矩とた我が東の先業も方よととらあはるく
てとと治せよと中とらあはる者ひのけとを治
物よりよとと病を治せよととらあはる者ひのけとを治
かそ者と取治せよととらあはる者ひのけとを治

風ありわくふれば帆と舟より秋風の風をげ志を放帆と云
合は指さすめ帆楫の加減をさるるものとさるるがれんが破損
ははは都野ふ業と強用い工夫人のより用白る者と
へるり病の程勇ふるたの弱國も劇業と勇い病の弱き強必
ふも後利と勇い人作必も生面あらがふかか同病たりとい
かも同業と強くは攻めがさるる病ありとるる後急去加増減の
じ加減ありはがれんが破損の者も強く名もあはるる異ふ
らば医者も強く医者も非だ却業も強く却業もあはるる
無量の巧言とばは病を迷はるる強欲たる大病と攻
破ると思ひもあらば面の皮あり此席を出てよらも口をさる
のうふ若き実医病をふさんとふらば先方今の出るとをさる

来るといふ二言の返着もふく恥辱のや堪らうけん返とく
へく前のは逃さうけりあとな出るの教井行庵寺額を仙使
余は得て我は猪山の合戦のありさるる元事壯健なる
人神も激戦に堪えざるは後には終るる高のやこの作疾丸
赤の七宝丸と勇いて合戦はなぶは急衝銀鐘に中候傷して合
するの強はた或の強を強熱と強或は後痛中利一激戦
ひ破して逃去るる玉もの或の此の如く照懸すれも激戦少し
ひろきだ業將特利と得ざる玉もあり元事強弱あり人
作必と激戦さうらうのや或の此の如く照懸すれも激戦少し
を強く合戦はなぶは中つる痛は強熱強強もふく後痛
下利もふくして激戦大はあまけ逃去るる玉もあり又激戦自若



にて遊去るは孫丸友と加倍して攻討もさ効あきまもあり
世医の論はる和は口中挿つて涎沫の苦ハ微毒骨髄を逐と
依る者煙粉刺喫業不扱いそらと骨より遊るのた筋ふく
齒ハ骨より入るものおとバ毒根より涎沫は射くぬけ出るまうと
云ふ能るは涎沫出とも微毒逐るは或ハ涎沫出されも微毒逐
き様あらざるはいうるは理ぞ又五宝丹難麻黄難汁羹山
飯刺喫業煙粉刺生乳そつひるごろえんからめり刺等
を用いて十の物ハ追治し今二つはあつて治せだ承るあつて救句
合致は及ふ四は次分ふらとりけりて治せざるはいうる故ぞ致そ
そ高海を中んと温和の尋まこあるも命を失く定下の向むも
肝腎のつらう凡人体玉の強弱病減の輕重をわかるとは業賦

賦のふ同あはせまの生質はよる業の懸懸ハ酒は准トて知は
そまの煙粉を搦て大々懸懸する者ハ酒を合と膠を大々碎を
煮するごと軽粉二をを用いて口中にまざる者ハ酒二升を飲で
も碎ざるがや一又輕粉の粉を用ひたる大々懸懸する時と又懸懸
の粉は射あり是も酒のむ人の強弱射と又碎る射は射と或ハ
劇刺を用ひたる初め大々懸懸し續々救す有用なる内は次第に
懸懸せざる扱もある者あり是も中戸の酒を飲まざるは上
戸もあるがや一又口中煤傷して涎沫を吐されハ微毒逐るはと
そまあは口中腐煤して臭き涎沫を吐は業毒の扱あつる
むく微毒のぬけるふあは此致ハ涎沫出るも微毒治せざる者
あり涎沫出されも微毒治する者あり凡微毒減はいつまより

遊するもふく子と知れば此者最速して治なるもつは下工居
するもあり或は下殺者なく消化して治なるもあり或劇
劑を用いて殺熱殺毒するもあり自下利するもあり或ハ
何れもく乳を飲かぬ食する者もあり是も業の懸懸あり
此時ハ氣分よろる近合戦をち一夜時方の急いささとの入く
食するにひりて又茶臼の業將と以て合戦なぶるなり此も
生物の二軍て必勝を獲ざるを禁ぐえにけ而して店を致さず
凡合戦先故將の智勇虚実とそらうにやあまふなき大
將と擇み申す時之愛は應て致されば必勝の理のあまふたたと
ハ徹勅あまふ金治するの理は治癒丸を用いても延まらぬ
と用いても其治する様なれども遠苗の業よりつるれば金治

せんと連振する内ふのあまふらする者ちり故まき症瘵
せんとつる射のよほくちをかむとのと馬と劫奪し去人と
つるあま甘んじ中を返さけは未ゆまう都良持養書を
あげ某も同受あり微毒とやある玉とて及交りても車は深
する玉もあり又微毒とやある玉と二期夫婦の更りをもせども情
深せざる玉ありいんとそらと厚車違ふと有りこい変じこ
同条より凡人身は天稟の毒とそら者あり此毒あり者ら
心の邪氣不難易し故は信深あり微毒麻痺瘵瘵にり
等ハ日本幸の地は幸ありあま病は非ん中たは其針玉より
後る不あり此毒人身天稟の毒は和して信深凡天稟の
毒なき者ハ信深せば天稟の毒種を者ハ信深するとも

治一湯天栗の毒海童なるもの付原一男くは治一
が世居天栗の毒あるものと知れ父母の微毒とを継
毒の毒なるものと指毒と云ふも天栗の毒は指毒
深すと付原と云ると付原と云ると付原の乳を感ず
と感ずると是を感ずると付原と云ると付原の毒の有
付原の毒の付原と云ると付原の毒の付原と云ると
を以て指毒と云ると付原と云ると付原の毒の有
ては中人と云ると天栗の毒は指毒と云ると付原の
付原の毒の付原と云ると付原の毒の付原と云ると
た葉と云ると付原と云ると付原の毒の有
毒なるが故なり是を指毒と云ると付原の毒の有

言の成らば我らにさうなり教養の同善御言のさるる
むるが如く痛くは遠くはれが病医屋伏の色と取れ再言と
教する者はかゝる毒を清用順又は実令飲の毒人なりと
付一及ふかと被て跳す毒を厚皮匠よりし我ら毒を
微毒大毒の毒と云ると医者と云るとは毒を軍記と云
まらば武勇の葉將と云るとは微毒人因通此を姑女属
おもはるるに人なりと云るとは毒を軍記と云るとは
耳鼻を初らば追ねるとは微毒大毒の毒なりと云ると
室をり今先追ぬる今先追ぬる今先追ぬる今先追ぬる
ふ射るる厚皮匠も後身と云るとは毒を軍記と云ると
らぬと云るとは毒を軍記と云るとは毒を軍記と云ると

六ふ敵やう百天の軍きつた討たすと申かたれは追まらぬ敵もあつた
たを死かたもなかりせんと追まらぬ二人の姿の如くはくくして
消えぬ遺棄せしむるは敵の如くはくくして追まらぬと云
よと云ふやう敵もあつた天の如くはくくして追まらぬと云
追まらぬは死に果たぬの姿を死に志を起して進んとする追まらぬ
敵もあつた後齊と進して二人をくくして追まらぬと云ふは
を流し眼死せしむるやうにせしめたりけり此の如くはくくして
まはしむるやうにせしめしむるはくくして追まらぬと云ふは
この敵もあつた將の武勇の如くはくくして追まらぬと云ふは
の血を流すやうにせしめしむるはくくして追まらぬと云ふは
言ふやうにせしめしむるはくくして追まらぬと云ふは

征伐の天元師ふん法も是追の好むと云ふはくくして追まらぬ
死と助けをくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬ
万一合戦征伐の如くはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬ
げをくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬ
と云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬ
も追まらぬの如くはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬ
まはしむるやうにせしめしむるはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬ
始末と云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬ
法をくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬ
と云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬ
敵もあつた後齊と進して二人をくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬ
を流し眼死せしむるやうにせしめたりけり此の如くはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬ
まはしむるやうにせしめしむるはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬ
この敵もあつた將の武勇の如くはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬ
の血を流すやうにせしめしむるはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬ
言ふやうにせしめしむるはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬと云ふはくくして追まらぬ

敵軍被二の巻終

家傳 **輔神丸** 一色七百丸
秘方 七返代後

大阪北久寶寺町三保橋西入
船越敬祐製



此藥、犀角、大人、春、涌、夫、益、等、と、以、て、製、す、る、故、は、味、は、苦、し
く、し、て、其、妙、功、神、の、お、じ、第、一、下、血、と、て、大、便、小、便、を、死、鮮
血、と、中、ひ、る、り、組、一、と、も、の、こ、ら、う、く、の、ゆ、り、た、る、 是、を、て、腹、中、よ、り
血、の、と、る、ふ、わ、い、ば、肛、門、の、内、や、ぶ、る、お、り、り、と、血、も、も、ち、り
是、を、て、一、日、者、の、一、度、は、又、合、ま、を、外、と、も、る、と、わ、り、數、日、を、も
ど、れ、の、精、氣、よ、つ、り、也、ま、る、る、べ、い、此、症、は、此、藥、を、用、ひ、て、速
功、と、ゆ、り、と、奇、妙、な、り、其、外、は、血、血、血、血、血、血、血、血、小、大、妙
業、を、り、婦、人、月、や、く、の、と、り、の、の、止、ま、る、小、妙、功、あり、一、日、小、妙
ふ、く、づ、さ、る、と、と、ま、ま、の、む、べ、い、百、數、百、中、の、神、業、を、り

